
クリスマス・イブ

皿尾 りお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマス・イブ

【NZコード】

N2994D

【作者名】

皿尾 りお

【あらすじ】

クリスマスに一人のあなたへ。私も一人です。どうぞ、通り過ぎてやって下さい。

(前書き)

クリスマスに一人のあなたへ

今日はクリスマス・イブ。

街は宝石箱をひっくり返したようなキラメキ。

街の空気は、ひんやり冷たいけれど、僕の心は温かい。

たとえ隣に、君が居なくとも。

君が居なくなつてからの僕の人生は、

不思議なくらい、安らいでいる。

あつと、「余生」とはいつこの轟を壊つたんだから。

「ねえ、タバコ、やめなよ~?」

「なんで?」

「なんでって・・・健康に悪いでしょ」「？」

「はは、好きなものを止めてまで、長生きしたいことは思わないねえ～」

「ねえ、私のビニールが好き?」「

「ビニールがって・・・全部?」「

「全部ついて、何なのよ～?」「

「だから、全部だよ。」「

「ふ～ん・・・やつぱりやりたいだけなんだ～・・・」「

「ねえ、もう、別れよ?好きな人が出来たの。」「

「・・・」

「何も言わないんだね・・・さよなら・・・」

今日はクリスマス・イブ。

街は、パレードのような装い。

カーニバル。

・・・・雪だ。

・・・天国からのガラクタ。

僕はタバコに火を着けようと、ライターを取り出す。

・・・君からのプレゼントだ。

ホント、馬鹿な女だ。

タバコを止めると云いながらの、プレゼントがこれだ。

だからかな・・・僕の体は温かい・・・

突然、街の灯りが、ぼやけて見える。

街のざわめきが遠ざかる。

僕は街中でうずくまる。

涙が止まらない。

「心と体は、繋がっているの。だって、心が悲しいと、

体は涙を流すでしょ？」

君から貰つた暖かな心で、

僕の心は埋め尽くされているから・・・

完

(後書き)

ありがとう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2994d/>

クリスマス・イブ

2010年11月23日03時33分発行